

知恵と工夫で生計の建て直しを～セブ北部復興支援～

年間 20 件近い台風の影響を受けるフィリピンですが、今年はフィリピン北端にあたるルソン島に三つの台風が上陸し（2016 年 10 月末現在）、農作物に甚大な被害をもたらしました。今回は、近年フィリピンを襲った台風でも最大勢力の、スーパー台風「ハイエン」（フィリピン名ヨランダ、2013 年 11 月発災）による被害から生計の建て直しをする人々について報告します。

日本赤十字社はフィリピン赤十字社とともにセブ北部で、住居支援と保健改善などを含めた包括的な復興支援をしています。

1 万ペソ（約 22000 円）の現金支給による生計再建支援もその一つで、前回は養豚に挑戦した人たちをご紹介しました。現金支給を受けた世帯 742 世帯のうち 55%が養豚を選びましたが、今回は、その他の生業を選んだ世帯を紹介します。

■ 貝細工職人 ジョエルさん

ジョエル・ピノさんは貝細工を作って卸す、職人兼工房経営者です。

台風のためにピノさんの自宅はつぶれましたが、重い研磨機はがれきの下から無傷で出てきました。おかげで台風の後もすぐに仕事を再開できました。

赤十字からの支援金 1 万ペソのうち、最初の 6000 ペソで中古の研磨機 2 台を購入、2 度目の 4000 ペソはさらに 5 台の



並んで作業にいそしむジョエルさんたち

頭金にしました。

彼の商売は順調に売り上げを伸ばし、今は近所の人を職人として雇い、9 人が出来高制で働いています。売り上げは観光シーズンに直結しているので、1 月から 4 月は収入は少なくなりますが、ハイ・シーズンの 5 月から 8 月になると、売り上げは被災前の倍の 28000 ペソになる月もあります。今では自分の家族を養うだけでなく、9 家族の収入に貢献する起業家になっています。



貝細工 — 大きな巻貝を研磨してツヤを出した置物や、美しい模様を活かしたブレスレットやネックレスが人気。

■ サリサリ・ショップ エルビラさん

台風により、自宅の屋根が完全に飛ばされてしまったエルビラ・フォルティスエラさんは、サリサリ・ショップ*を営んでいます。

これまでの売り上げは、生活を支える収入にはなりませんでしたが。セブ市内に働きに出ている娘の子ども（孫）を預かり、その養育費として受け取る 1000 ペソが主な収入でした。

米やコーンライス（トウモロコシを砕いたもの。白米の代用食）は、誰もが毎日食べるものなので安定した収入源になるとはわかっていますが、一袋 50kg が 2000 ペソ、1200 ペソもするため、今まで高くて仕入れることができませんでした。被災後、赤十字の支援金で思い切って購入し、小売りを始めました。

帳簿を付けていないので、いくら儲かっているかはわかりませんが、今は好きなものを食べられるようになったのは事実です。

エルビラさんは上手に収入を増やしていることがわかりましたが、赤十字の支援を受けて店を再開した全てのサリサリ・ショップがうまくいっているわけではありません。支援開始後 6 カ月目に訪ねた前回より、明らかに商品数が減っている店も 2 軒ありました。残念ながら、現金支援は一時的な助けにしかならなかったところもあるようです。

*サリサリ・ショップ・・・自宅の一角や小さな小屋を店舗として、駄菓子や日用品を売る売店。「サリサリ」はタガログ語で様々な種類のものを指す。客は窓口で注文し、店の中には入らない。エルビラさんは自宅傍の小さな小屋を店にしている。

■三輪タクシー（トライシクル） ディブシオさん

もともとは建設労働者だったディブシオ・アラビスさんは、妻と成人した 3 人の子ともと暮らしています。赤十字の支援金に自己資金を足して、中古のサイドカー（客が乗る部分）を 13,000 ペソで買いました。さらに、真新しいオートバイも 3 年ローンで買い、タクシー業を始めました。

ディブシオさんの住む地域は、人通りもあまりない田舎なので、通常はお客さんは多くありません。一日の売り上げは 200 ペソぐらいです。特に、学校が休みの 4, 5 月は通学の足として使う生徒からの収入もなくなり、さらに少なくなります。



新しいトライシクルとディブシオさん父娘

毎月のローン 3800 ペソの支払いも、とても厳しいです。しかし、たいていの方がしているように、トライシクルを借りてリース料を払い続けて商売をするより、同じ厳しい支払いでも、ローンであれば返済後にはトライシクルが手元に残ります。

奥さんは近所の人々の洗濯をしてわずかな手間賃を稼ぎ家計を支えています。あと 2 年、ローンを払い終える日を楽しみに、家族で歯を食いしばって頑張っています。ディブシオさん一家がローンを完済できる日を、内心心配しながら心待ちにしています。

聞き取りをした 25 世帯の被災前の平均収入は約 3000 ペソ。支援開始後 15 カ月の平均は約 4200 ペソで、ほとんどの世帯の収入は確実に増えています。多くの方が「好きなものを食べられるようになった」「子どもに運動靴を買えるようになった」と、嬉しそうです。

わたしたち日本赤十字社から支援を受けた被災者の皆さんは、着実に生活を向上させていることを、寄付者の皆さまにご報告します。

★海外たすけあいユースボランティア SNS ぜひフォローをお願いします！★

Facebook: jrc.tasukeai Twitter: jrc_tasukeai Instagram: KAIGAI_tasukeai